

第65回 定時株主総会 招集ご通知

日時 2023年6月23日（金曜日）午前10時
（当日は、午前9時より受付を開始いたします。）

場所 東京都千代田区飯田橋三丁目10番8号
ホテル メトロポリタン エドモント2階 悠久の間

決議事項

- 第1号議案 取締役6名選任の件
- 第2号議案 監査役1名選任の件
- 第3号議案 取締役に対する業績連動型株式報酬制度改定の件

郵送及びインターネットによる議決権行使期限
2023年6月22日（木曜日）
午後5時10分まで

株主総会にご出席されない場合は、インターネット/スマートフォンまたは書面による議決権の行使をお願いいたします。
書面にて行使いただく場合は、お早目の投函をお願いいたします。

(証券コード：4569)

2023年6月5日

(電子提供措置の開始日 2023年6月1日)

株 主 各 位

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

杏 林 製 薬 株 式 会 社

代表取締役社長 荻 原 豊

第65回 定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素より格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

さて、当社第65回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申しあげます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイトに電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト <https://www.kyorin-pharm.co.jp/ir/stock/meeting.shtml>

また、上記のほか、東京証券取引所（東証）のウェブサイトにも掲載しておりますので、以下の東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）にアクセスして、銘柄名（会社名）または証券コードを入力・検索し、「基本情報」、「縦覧書類／P R 情報」を選択のうえ、ご確認くださいようお願い申しあげます。

東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

なお、書面または電磁的方法（インターネット等）により議決権を行使することができますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討くださいますと、2023年6月22日（木曜日）営業時間終了の時（午後5時10分）までに議決権を行使いただきたくお願い申しあげます。

敬 具

記

1. 日 時 2023年6月23日（金曜日） 午前10時
（受付開始予定時刻：午前9時）
2. 場 所 東京都千代田区飯田橋三丁目10番8号
ホテル メトロポリタン エドモント 2階 悠久の間
（末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。）

3. 目的事項
報告事項

1. 第65期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第65期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）計算書類の内容報告の件

決議事項

- 第1号議案 取締役6名選任の件
第2号議案 監査役1名選任の件
第3号議案 取締役に対する業績連動型株式報酬制度改定の件

4. 招集にあたっての決定事項

インターネットによる方法と議決権行使書と重複して議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権行使を有効なものとしたします。また、インターネットによる方法で複数回議決権を行使された場合は、最後に行われたものを有効なものとしたします。

ご返送いただいた議決権行使書において、各議案につき賛否の表示をされない場合は、賛成の意思表示があったものとして取り扱います。

以 上

・当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

・電子提供措置事項に修正が生じた場合は、前ページ記載の当社ウェブサイト及び東証ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載いたします。

・電子提供措置事項のうち、次に掲げる事項につきましては、法令及び当社定款の定めに基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面には記載しておりません。

- ① 事業報告の「会計監査人の状況」「会社の体制及び方針」
- ② 連結計算書類の「連結株主資本等変動計算書」「連結注記表」
- ③ 計算書類
- ④ 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告
- ⑤ 計算書類に係る会計監査人の監査報告
- ⑥ 監査役会の監査報告

・定時株主総会招集ご通知（英語版）をインターネット上の当社ウェブサイトに掲載しております。

英語版当社ウェブサイトアドレス：<https://www.kyorin-pharm.co.jp/en/>

議決権行使のご案内

株主総会にご出席いただける場合



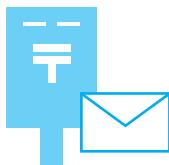
同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

開催日時

2023年6月23日（金曜日）午前10時（受付開始 午前9時）

株主総会にご出席いただけない場合

郵送



同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、ご返送ください。議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。

議決権
行使期限

2023年6月22日（木曜日）午後5時10分到着分まで

インターネット



当社指定の議決権行使ウェブサイト（<https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>）にて各議案に対する賛否をご入力ください。

議決権
行使期限

2023年6月22日（木曜日）午後5時10分まで

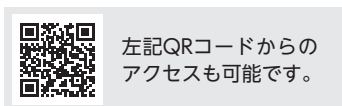
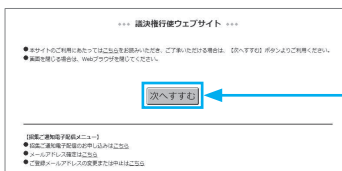
詳細は **次ページ** をご覧ください

※ 代理人によるご出席の場合は、委任状と、本人及び代理人の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。
（定款の定めにより、代理人の資格は、当社の議決権を有する他の株主様1名に限らせていただいております。）
なお、電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトに掲載させていただきます。

インターネットによる議決権行使のご案内

議決権をインターネットにより行使される場合は、次の事項をご了承のうえ、議決権行使ウェブサイトへアクセスいただき、議決権行使書用紙の右片に記載の「議決権行使コード」と「パスワード」を入力して、画面の案内に従って行使していただきますようお願い申し上げます。

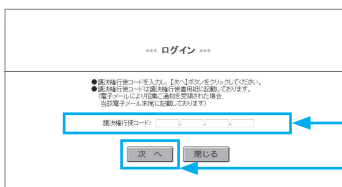
1 議決権行使ウェブサイトへアクセス



議決権行使ウェブサイト
<https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>
 または検索サイト
議決権行使 みずほ **検索**
 で検索。

「インターネットによる議決権行使について」をお読みいただき、「次へすすむ」をクリック。

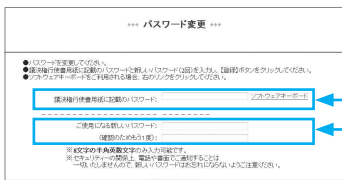
2 ログイン



「議決権行使コード」を入力し、「次へ」をクリック。

※「議決権行使コード」及び「パスワード」は本書同封の「議決権行使書用紙」の右片に記載されております。

3 パスワードの入力



パスワード変更画面が出ますので、**初期パスワード**を入力し、**株主様**がご使用になる**パスワード**を登録してください。

以降は画面の指示に従って賛否をご入力ください

！ ご注意

- パスワードは、ご投票される方が株主様ご本人であることを確認する手段です。本株主総会終了まで、大切に保管ください。パスワードのお電話等によるご照会には、お答えすることができません。
- パスワードは一定回数以上間違えるとロックされ使用できなくなります。ロックされてしまった場合、画面の案内に従ってお手続きください。
- 議決権行使ウェブサイトは一般的なインターネット接続環境にて動作確認を行っておりますが、ご利用の機器によってはご利用いただけない場合もございます。
- 書面とインターネットにより二重に議決権を行使された場合は、インターネットによる行使を有効な行使としてお取り扱いいたします。
- インターネットで議決権を複数回にわたり行使された場合は、最後の行使を有効な行使としてお取り扱いいたします。
- インターネット接続・利用に関する費用は株主様のご負担となります。

インターネットによる議決権行使で、パソコンの操作方法等がご不明の場合は、下記にお問い合わせください。

ご利用に関するお問い合わせ先

みずほ信託銀行 証券代行部

☎0120-768-524

受付時間

9：00～21：00（土・日・休日を除く）

機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームについて

株式会社 I C J が運営する機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームのご利用を事前に申し込まれた場合には、上記のほか、当該プラットフォームをご利用いただけます。

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 取締役6名選任の件

取締役全員9名は、本総会終結の時をもって任期満了となります。
つきましては、取締役6名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名	現在の地位・担当	属性
1	穂川 稔 <small>ほ がわ みのる</small>	代表取締役会長	再任
2	荻原 豊 <small>おぎ はら ゆたか</small>	代表取締役社長 CEO 監査室担当	再任
3	大野田 道郎 <small>おお の た みち ろう</small>	取締役 CMO SCM本部・信頼性保証本部担当	再任
4	鹿内 徳行 <small>しか ない のり ゆき</small>	取締役	再任 社外 独立
5	重松 健 <small>しげ まつ けん</small>	取締役	再任 社外 独立
6	渡邊 弘美 <small>わた なべ ひろ み</small>	取締役	再任 社外 独立

再任 再任取締役候補者 社外 社外取締役候補者 独立 証券取引所等の定めに基づく独立役員

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
1	<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div> ほがわのる 穂川 稔 (1953年9月4日生)	1976年12月 杏林薬品(株) 入社 2000年4月 杏林製薬(株) 企画室長 2004年6月 同 執行役員 経営企画部長 2005年6月 同 取締役常務執行役員 経営戦略室長 2006年1月 当社 取締役 経営戦略室長(兼) 経営企画部長 経理担当 2007年6月 杏林製薬(株) 取締役常務執行役員 経営戦略室長(兼) 経営企画部長 2010年4月 当社 取締役 常務執行役員 グループ経営企画 統轄部長 グループ経理財務統轄部担当 2010年6月 同 常務取締役 グループ経営企画統轄部長 グループ経理財務統轄部担当 2010年6月 杏林製薬(株) 常務取締役 2012年6月 同 専務取締役 2012年6月 当社 専務取締役 グループ経営企画統轄部長 グループ経理財務統轄部担当 2015年6月 同 代表取締役社長 グループ監査室担当 2015年6月 杏林製薬(株) 取締役 2017年6月 同 代表取締役社長 2019年6月 同 代表取締役会長 2019年6月 当社 代表取締役会長(現任)	32,128株
取締役候補者の選任理由 穂川稔氏は、2015年から4年間、当社代表取締役社長として当社グループの経営を指揮し、経営者として豊富な経験・実績・見識を有しております。2019年6月の当社代表取締役会長就任後は、この経験を生かし、取締役会において大所高所から助言と支援を行っており、グループの重要事項の決定及び業務執行の監督等に十分な役割を果たしております。今後も当社グループの発展に不可欠であると判断し、取締役候補者としております。			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">再任</div> おぎ はら ゆたか 荻 原 豊 (1967年7月14日生)	1990年4月 杏林製菓(株) 入社 2011年6月 当社 社長室長 2011年6月 同 取締役 社長室長 コーポレートコミュニケーション統轄部・グループ情報システム統轄部担当 2014年6月 杏林製菓(株) 取締役 2015年6月 当社 取締役 社長室長 2016年6月 同 常務取締役 社長室長 2016年6月 杏林製菓(株) 常務取締役 2019年4月 当社 常務取締役 経営戦略室長 グループ情報システム統轄部担当 2019年6月 同 代表取締役社長 グループ監査室担当 2019年6月 杏林製菓(株) 取締役 2023年4月 当社 代表取締役社長 CEO 監査室担当 (現任)	1,875,953株
取締役候補者の選任理由 荻原豊氏は、当社及びグループ会社の経営企画部門を主に担当し、事業及び会社経営について豊富な経験を有しております。2019年6月の当社代表取締役社長就任後は、この経験を生かし、グループの重要事項の決定及び業務執行の監督等に十分な役割を果たしており、今後も当社グループの発展に不可欠であると判断し、取締役候補者としております。			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div> おおの た みち ろう 大野田 道 郎 (1960年8月20日生)	1985年4月 杏林製薬(株) 入社 2006年4月 同 生産本部生産技術部長 2008年4月 同 生産本部岡谷工場長 2010年4月 同 生産本部生産部長 2014年4月 キョーリンリメディオ(株) 常務取締役 2015年4月 同 代表取締役社長 2015年4月 当社 執行役員 2017年6月 同 取締役 2018年4月 キョーリンリメディオ(株) 取締役(現任) 2018年4月 キョーリン製薬グループ工場(株) 代表取締役社長(現任) 2018年6月 杏林製薬(株) 取締役 2019年6月 当社 取締役 GE事業担当 2021年6月 当社 取締役 信頼性保証担当 2023年4月 当社 取締役 CMO SCM本部・信頼性保証本部担当(現任)	12,685株
取締役候補者の選任理由 大野田道郎氏は、当社グループ会社の研究開発・生産部門での業務経験が豊富であり、また、当社子会社の代表取締役社長として、事業及び会社経営について豊富な経験を有しております。当社取締役就任後は、この経験を生かし、グループの重要事項の決定及び業務執行の監督等に十分な役割を果たしており、今後も当社グループの発展に不可欠であると判断し、取締役候補者としております。			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">社外</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">独立</div> 鹿内徳行 (1948年7月14日生)	1974年4月 弁護士登録(第二東京弁護士会) 1977年3月 鹿内法律事務所(現 京橋法律事務所)開設(現任) 2002年10月 慶應義塾大学 評議員(現任) 2010年10月 同 理事(現任) 2012年4月 学校法人 桜美林学園 監事 2013年6月 当社 社外取締役(現任)	4,400株
社外取締役候補者の選任理由及び期待される役割 鹿内徳行氏は、弁護士として企業法務に精通し、慶應義塾大学理事等の要職を務める等、その高度な専門性と豊富な経験を生かして、当社及びグループ会社の経営の重要事項の決定及び業務執行の監督等に十分な役割を果たしております。引き続き法人運営等の経験をふまえ、主に法的な観点からの提言や助言を通じて当社グループの発展に貢献することが期待できると判断し、社外取締役候補者としております。			
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">社外</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">独立</div> 重松健 (1948年11月15日生)	1971年4月 (株)三越 入社 1991年3月 同 米国三越 社長 1997年3月 同 国際事業部長 1998年3月 同 営業本部商品企画部長 1999年3月 同 執行役員 営業本部商品企画部長 2002年5月 同 取締役執行役員 営業本部副本部長 2004年3月 同 取締役常務執行役員 商品本部長 2005年3月 同 取締役常務執行役員 銀座店長 2008年4月 (株)三越伊勢丹ホールディングス 常務執行役員 (兼) (株)三越 取締役 2009年4月 (株)三越 取締役専務執行役員 特命担当 2010年4月 (株)三越伊勢丹ホールディングス 専務執行役員 (兼) (株)名古屋三越 代表取締役社長 2011年10月 (株)遠藤製作所 代表取締役社長 2015年10月 MFSJ(株) 代表取締役社長 2017年6月 当社 社外取締役(現任)	4,200株
社外取締役候補者の選任理由及び期待される役割 重松健氏は、(株)三越伊勢丹ホールディングス等の役員を歴任しており、経営に関する豊富な経験を通じて培った幅広い見識を生かして、当社及びグループ会社の経営の重要事項の決定及び業務執行の監督等に十分な役割を果たしております。引き続き経営者としての経験を生かした大局的な視点からの提言や助言を通じて当社グループの発展に貢献することが期待できると判断し、社外取締役候補者としております。			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">社外</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">独立</div> 渡 邊 弘 美 (1947年7月23日生)	1972年4月 東京女子医科大学病院 内科入局 1998年4月 東京女子医科大学 看護学部 内科学 助教授 2007年4月 淑徳大学 看護学部 医学系 教授・学部長 2010年4月 学校法人 大乘淑徳学園 理事 2011年4月 淑徳大学 看護栄養学部 医学系 教授 2014年11月 日本女医会 東京都支部連合会 会長 (現任) 2016年4月 淑徳大学大学院 看護学研究科 教授 2018年4月 社会福祉法人 高齢者保健医療総合センター浴風会病院 神経内科勤務 (現任) 2018年6月 NPO法人 3.11甲状腺がん子ども基金 理事 (現任) 2019年6月 当社 社外取締役 (現任) 2021年4月 学校法人 大乘淑徳学園 理事 (現任) 2021年10月 下高井戸駅前クリニックみみはなのどプラス 副院長 (現任)	1,800株
社外取締役候補者の選任理由及び期待される役割 渡邊弘美氏は、社外役員になること以外の方法で経営に関与したことはありませんが、医師としての豊富な臨床・研究経験や看護教育で培った医療現場における幅広い見識、社会貢献活動への参加、女性の活躍推進への積極的な関わりなどの豊富な経験を有しており、当社及びグループ会社の経営の重要事項の決定及び業務執行の監督等に十分な役割を果たしております。引き続き医療現場での経験や多様性の一つである女性の活躍推進の観点からの提言や助言を通じて当社グループの発展に貢献することが期待できると判断し、社外取締役候補者としております。			

- (注) 1. 各候補者の略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況欄に記載の杏林製薬(株)は2023年4月1日付で当社と合併した旧杏林製薬(株)を指します。
2. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
3. 鹿内德行、重松健、渡邊弘美の各氏は、社外取締役候補者であります。
4. 京橋法律事務所と当社との間には、顧問契約、その他の取引関係はありません。
5. 社会福祉法人高齢者保健医療総合センター浴風会病院、下高井戸駅前クリニックみみはなのどプラスと当社との間には、購入、販売等の取引関係がありますが、当該施設の当社の売上は年間連結売上高に対して僅少であることから、渡邊弘美氏の社外役員としての独立性に影響を及ぼすものではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断しております。
6. 当社の社外取締役の在任年数は、本総会終結の時をもって、鹿内德行氏は10年、重松健氏は6年、渡邊弘美氏は4年であります。
7. 鹿内德行、重松健、渡邊弘美の各氏は、(株)東京証券取引所の定めに基づく独立役員要件を満たしているため、独立役員として同取引所に届け出ております。
8. 当社は、当社及び子会社の取締役、監査役、執行役員等を被保険者として、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により補填することとしております。ただし、私的な利益または便宜の供与を違法に得たことに起因して生じた損害は補填されない等の免責事由があります。なお、当該契約の保険料は当社及び各子会社が全額負担しております。各候補者が取締役に選任され就任した場合は、当該保険契約の被保険者となります。また、2023年7月に当該保険契約を同様の内容で更新することを予定しております。

第2号議案 監査役1名選任の件

監査役山口隆央氏は、本総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、監査役1名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、地位及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 5px;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 5px;">社外</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 5px;">独立</div> やま ぐち たか お 山 口 隆 央 (1954年9月13日生)	1981年10月 監査法人中央会計事務所 入所 1985年2月 公認会計士 登録 1987年9月 山口公認会計士事務所 入所 1987年12月 税理士登録 1996年1月 山口公認会計士事務所 所長(現任) 2013年6月 日本公認会計士協会東京会千代田会 会長 2013年6月 サトーホールディングス(株) 社外監査役 2015年6月 当社 社外監査役(現任) 2016年3月 東京建物(株) 社外監査役(現任) 2019年3月 ライオン(株) 社外監査役	2,200株

社外監査役候補者の選任理由

山口隆央氏は、社外役員になること以外の方法で経営に関与したことはありませんが、公認会計士、税理士として財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、当該専門的見地と広い知識・経験を生かし経営監督機能を果たしております。引き続きその専門性と経験を監査に活かすことができるものと判断し社外監査役候補者としております。

再任 再任監査役候補者 **社外** 社外監査役候補者 **独立** 証券取引所等の定めに基づく独立役員

- (注) 1. 候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 社外監査役候補者に関する事項は、以下のとおりであります。
- (1) 山口隆央氏は、社外監査役候補者であります。
 - (2) 山口隆央氏の当社における監査役の在任年数は、本総会終結の時をもって、8年であります。
 - (3) 山口公認会計士事務所と当社との間には、顧問契約、その他の取引関係はありません。
 - (4) 東京建物(株)と当社との間には、購入、販売等の取引関係はありません。
 - (5) 山口隆央氏は、(株)東京証券取引所の定めに基づく独立役員要件を満たしているため、独立役員として同取引所に届け出ております。
3. 当社は、当社及び子会社の取締役、監査役、執行役員等を被保険者として、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により補填することとしております。ただし、私的な利益または便宜の供与を違法に得たことに起因して生じた損害は補填されない等の免責事由があります。なお、当該契約の保険料は当社及び各子会社が全額負担しています。候補者が監査役に選任され就任した場合は、当該保険契約の被保険者となります。また、2023年7月に当該保険契約を同様の内容で更新することを予定しております。

以上

(ご参考) 当社の取締役会のスキルマトリクス

当社は、中長期的な経営の方向性や事業戦略に照らして、取締役会がその意思決定機能及び経営の監督機能を適切に発揮し、より透明性の高いガバナンス体制を保持するため、様々なスキル（知識・経験等）を持つ多様な人材で取締役会を構成しております。

本定時株主総会において、第1号議案及び第2号議案が原案どおり承認された場合の取締役会の構成、並びに各取締役及び各監査役が備えるスキルは以下のとおりです。

	氏名	属性	企業経営	ヘルスケア 事業	財務・会計	法務	学識経験者	主な資格等
取締役	穂川稔		○	○	○			
	荻原豊		○	○				
	大野田道郎		○	○				
	鹿内徳行	社外・独立				○		弁護士
	重松健	社外・独立	○					
	渡邊弘美	社外・独立		○			○	医師
監査役	松本臣春			○		○		
	阿久津賢二		○	○				
	山口隆央	社外・独立			○			公認会計士
	池村幸雄	社外・独立	○		○			
	森田憲右	社外・独立				○	○	弁護士

第3号議案 取締役に対する業績連動型株式報酬制度改定の件

1. 提案の理由及びこれを相当とする理由

当社は、2016年6月24日開催の第58回定時株主総会において当社の取締役及び子会社の取締役（社外取締役を除きます。以下、断りがない限り、本議案において同じとします。）を対象とした業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT（＝Board Benefit Trust））」（以下、「本制度」といいます。）の導入についてご承認いただき（以下、上記株主総会における決議を「原決議」といいます。）今日に至っておりますが、2023年4月に当社子会社である杏林製薬株式会社を吸収合併したことに伴い、本制度に係る対象者、報酬枠等を改定（以下、「本改定」といいます。）することにつき、ご承認をお願いするものであります。本議案は、原決議同様、取締役の報酬と当社グループの業績との連動性をより明確にし、中長期的な業績の成長と企業価値の向上に貢献する意識を高めることを目的としたものであります。また、取締役が株価の変動によるメリット及びリスクを株主の皆様と共有することも目的としております。

本制度は、当社が本制度遂行に必要な合理的な額の金銭を信託に拠出し、信託がこれを原資として当社株式を取得し、当社が定める役員株式給付規程に従って当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下、「当社株式等」といいます。）を給付するものです。

上記の目的及び当社の取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する方針（本招集ご通知 事業報告 会社役員に関する事項ご参照）の内容に鑑み、本議案の内容は相当と判断しております。

本議案は、2006年6月22日開催の定時株主総会においてご承認いただきました当社取締役の報酬等（年額500百万円以内。ただし連結子会社からの報酬や使用人部分の給与等を除く。）とは別枠として、本制度に基づく報酬を取締役に対して支給するため、報酬等の額の具体的な算定方法及び具体的な内容についてのご承認をお願いするものです。本制度の詳細につきましては、下記の枠内で、取締役会にご一任いただきたいと思います。

なお、第1号議案「取締役6名選任の件」が本総会にて承認可決された場合、本制度の対象となる当社取締役の員数は社外取締役3名を除く3名となります。

2. 本制度に係る報酬等の額の具体的な算定方法及び具体的な内容

従前の本制度の内容を一部改定いたしたく存じます。(原決議に際しての議案からの主な改定箇所は下線のとおりです。)

(1) 本制度の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」といいます。）を通じて取得され、取締役に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式等が信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として役員株式給付規程に定める信託期間中の一定期日とします。ただし、当該期日が到来するまでに退任する場合は、当該取締役の退任時とします。

(2) 本制度の対象者

当社の取締役（ただし、社外取締役を除きます。なお、監査役は、本制度の対象外とします。）

(3) 取締役に給付される当社株式数の算定方法とその上限

取締役には、各事業年度に関して、役員株式給付規程に基づき役位及び業績達成度等により定まる数のポイントが付与されます。取締役に付与される1事業年度当たりのポイント数は、25,000ポイントを上限といたします。

これは、現在の役員報酬の支給水準、取締役の員数の動向と今後の見込み等を総合的に勘案して決定したものであり、相当であるものと判断しております。なお、取締役に付与されるポイントは、下記(6)の当社株式等の給付に際し、1ポイント当たり当社普通株式1株に換算されます（ただし、本株主総会における株主の皆様による承認決議の後において、当社株式について、株式分割、株式無償割当てまたは株式併合等が行われた場合には、その比率等に応じて、ポイント数の上限及び付与済みのポイント数または換算比率について合理的な調整を行います。）。

下記(6)の当社株式等の給付に当たり基準となるポイント数は、取締役が受給権を取得するまでに付与されたポイントを合計した数（以下、「確定ポイント数」といいます。）で確定します。

(4) 当社株式の取得方法

本信託による当社株式の取得は、下記(5)により拠出された資金を原資として、株式市場を通じてまたは当社の自己株式処分を引き受ける方法によりこれを実施します。本信託による当社株式の取得につき、その詳細は、適時適切に開示いたします。

(5) 信託金額

当社は、上記（3）及び下記（6）に従って当社株式等の給付を行うために必要となることが合理的に見込まれる数の株式を本信託が一定期間分先行して取得するために必要となる資金を拠出し、本信託を設定しております。本信託は上記（4）のとおり、当社が拠出する資金を原資として、当社株式を取得しております。具体的には、第58回定時株主総会でご承認いただいた範囲内で、2017年3月末日で終了する事業年度から2020年3月末日で終了する事業年度までの4事業年度（以下、「当初対象期間」といいます。）に対応する必要資金として250百万円の金銭を拠出し、本信託を設定しております。

本議案をご承認いただくことを条件として、当社は、本改定後の次期対象期間を2024年3月末日で終了する事業年度から2026年3月末日で終了する事業年度までの3事業年度（以下、当該3事業年度の期間と当該3事業年度の経過後に開始する原則として3事業年度ごとの期間をそれぞれ「改定後対象期間」といいます。）とします。本制度が終了するまでの間、当社は原則として改定後対象期間に関し、本制度に基づく取締役への給付を行うために必要な株式数を合理的に見込み、本信託が先行して取得するために必要と認める資金を、本信託に追加拠出することとします。なお、改定後対象期間は、当社の中期経営計画の期間と連動させることとし、今後、中期経営計画の期間を変更した場合、当該期間に応じて改定後対象期間も変更いたします。ただし、係る追加拠出を行う場合において、当該追加拠出を行おうとする改定後対象期間の開始直前日に信託財産内に残存する当社株式（取締役が付与されたポイント数に相当する当社株式で、取締役に対する株式の給付が未了であるものを除きます。）及び金銭（以下、「残存株式等」といいます。）があるときは、残存株式等は改定後対象期間における本制度に基づく給付の原資に充当することとします。当社が追加拠出を決定したときは、適時適切に開示します。

(6) 当社株式等の給付時期

取締役は、役員株式給付規程に定める受益者要件を満たした場合、所定の受益者確定手続を行うことにより、本信託から確定ポイント数に応じた数の当社株式の給付を受けることができます。ただし、受益者要件に加えて役員株式給付規程に別途定める要件を満たす場合には、当該取締役に付与されたポイント数の一定割合について、当社株式の給付に代えて、当社株式を時価で換算した金額相当の金銭の給付を受けます。なお、金銭給付を行うために、本信託より当社株式を売却する場合があります。また、信託期間中に取締役に死亡した場合、原則として当該取締役にその時点で付与されているポイントに対応する当社株式について、当社株式を時価で換算した金額相当の金銭の給付を、当該取締役の相続人が受けるものとします。

なお、ポイントの付与を受けた取締役であっても、在任中に一定の非違行為を行ったと会社が判断した場合及び在任中に会社に損害が及ぶような不適切行為等を行ったと会社が判断した場合は、給付を受ける権利を取得できないこととします。

(7) 本信託内の当社株式に関する議決権

本信託勘定内の当社株式に係る議決権は、信託管理人の指図に基づき、一律に行使しないこととします。かかる方法によることで、本信託勘定内の当社株式に係る議決権の行使について、当社経営への中立性を確保することを企図しています。

(8) 配当の取扱い

本信託勘定内の当社株式に係る配当は、本信託が受領し、当社株式の取得代金や本信託に係る受託者の信託報酬等に充てられます。なお、本信託が終了する場合において、本信託内に残存する配当金等は、役員株式給付規程の定めに従って、その時点で在任する取締役に対して、各々が保有するポイント数に応じて、按分して給付されることとなります。

事業報告

(自 2022年4月1日)
(至 2023年3月31日)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当期における国内医療用医薬品業界は、薬価制度改革の基本方針に沿って2022年4月に薬価改定が実施されるなど、継続的な薬剤費抑制策が推進される一方で、新型コロナウイルス感染症による影響を受けていた患者さんの受診行動の平常化も認められ、市場は一桁台前半の成長率で推移しました。

このような環境のなか、当社グループは長期ビジョン「HOPE100」の実現に向けて、中期経営計画「HOPE100 – ステージ3 – (2020年度～2023年度)」のもと、2023年3月期の経営方針に「オリジナリティーの追求による成長トレンドの実現」を掲げました。事業戦略においては事業の「スピード」の向上を重点ポイントとして、①新薬群の成長加速、②開発パイプラインの拡充、③創薬のスピード向上の3つに積極的に取り組みました。

当連結会計年度における売上高は、薬価改定（杏林製薬㈱8%台）や新型コロナウイルス感染症による影響はあったものの、積極的な製品普及の促進に努めたことにより、新医薬品等（国内）の売り上げは前期を上回る実績となりました。また後発医薬品の売り上げも増加し、全体の売り上げは1,132億70百万円と前期比77億35百万円（前期比7.3%増）の増収となり、連結業績予想を達成いたしました。

利益面では、薬価改定等の影響により売上原価率は上昇したものの、売上拡大により売上総利益は前期に対して7億26百万円増加しました。また前年に計上した導入品に関わる契約一時金の反動減、コスト削減の取り組み等により研究開発費を除く販売費及び一般管理費が前期に対して13億95百万円減少（研究開発費は20億05百万円増）し、営業利益は51億23百万円と前期比1億15百万円（前期比2.3%増）の増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、西日本配送センターにおける火災により被災した委託保管製品に関わる保険差益8億81百万円、及び受取損害賠償金4億01百万円、投資有価証券売却益6億85百万円を特別利益として計上し、他方、杏林製薬㈱の子会社であるActivX Biosciences, Inc.の解散費用7億16百万円を特別損失として計上した結果、47億23百万円と前期比7億91百万円（前期比20.1%増）の増益となりました。

売上高の状況につきましては、以下のとおりです。

〔新医薬品等（国内）〕

杏林製薬(株)はFC（フランチャイズカスタマー）戦略を推進するとともに、ソリューション提供型営業活動（課題解決策の提案）への変貌を中期経営計画の重点戦略に掲げ、事業を展開しました。当連結会計年度におきましては、新型コロナウイルス感染症による患者さんの受診行動も平常化するなか、各医療機関の意向に沿ってMR（医薬情報担当者）の訪問面談を再開する一方、従来の訪問面談に加えてデジタルチャネルを活用した情報提供を複合的に行うことで営業力の補完・強化を図り、新薬群の成長加速に取り組みました。その結果、主力製品である過活動膀胱治療剤「ベオーバ」、アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」、ニューキノロン系抗菌剤「ラスビック」が伸長しました。他方、薬価改定等の影響により、長期収載品である気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」等の売り上げは減少しました。

2022年4月に新発売した咳嗽治療薬「リフヌア」については、難治性の慢性咳嗽に適應を有する唯一の薬剤としてのポジショニング確立に向け、呼吸器専門医を中心に情報提供を行い製品特性の理解促進に取り組みました。なお杏林製薬(株)がMSD(株)と日本国内におけるコ・プロモーション契約を締結していた抗ウイルス剤「ラゲブリオ」については、2022年1月より両社でプロモーションを実施してきましたが、当初の目的を達成したことから、同年12月末をもって契約を終了しました。

診断事業に関わる取り組みとしては、体外診断用医薬品である新型コロナウイルス核酸検出キット「GeneSoC SARS-CoV-2 N2検出キット」を2022年4月に、インフルエンザウイルス核酸キット「GeneSoCインフルエンザウイルスA/B検出キット」を同年11月に発売しました。またライフサイエンス・理化学市場向けに開発した研究用機器「超高速リアルタイムPCR装置GeneSoC miniR」を2023年3月に発売しました。杏林製薬(株)は、呼吸器感染症・性感染症領域等におけるGeneSoC専用の研究用試薬及び体外診断用医薬品の開発・販売を通してこれらの感染症の診断・予防・治療への貢献を目指します。

以上の結果、新医薬品等（国内）の売上高は747億70百万円（前期比7.2%増）となりました。

〔新医薬品（海外）〕

前期に計上した製品の導出に関わる契約一時金収入の反動減等により、売上高は3億08百万円（前期比70.1%減）となりました。

〔後発医薬品〕

一部の後発医薬品企業の品質問題に端を発した安定供給不安への対応に最大限注力するとともに、新規追補収載品及び重点品目の売上拡大に努めました。その結果、キプレスのオー

ソライズド・ジェネリック等の実績が前期を上回ったことにより、売上高は381億90百万円（前期比9.8%増）となりました。

品質確保の取り組みについては、杏林製薬㈱、キョーリンリメディオ㈱、キョーリン製薬グループ工場㈱が品質方針を掲げ、一丸となってGMP（医薬品等の製造管理及び品質管理の基準）などの法令遵守の徹底を図るとともに、品質管理体制のより一層の強化に努めました。今後とも信頼性の確保に最大限注力し、高品質で安心・安全な製品を提供してまいります。

2021年11月29日に発生した㈱日立物流西日本（現ロジスティード西日本㈱ 以下同じ）舞州営業所における火災への対応としては、2022年6月9日、㈱日立物流西日本 久御山営業所内に開設した杏林製薬㈱ 西日本配送センターより出荷を開始し、これまでの東西2拠点による物流体制を再構築しました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況は、以下のとおりです。

前立腺肥大症治療薬「開発コード：AKP-009」について、導入元のあすか製薬㈱が2021年9月に開始した追加の第Ⅰ相臨床試験を2023年3月期 第1四半期連結会計期間に終了しました。なお、その評価結果を受けて今後、あすか製薬㈱が再度、第Ⅰ相臨床試験を予定しております。また過活動膀胱治療薬「KRP-114VP」について、小児過活動膀胱患者を対象とした第Ⅰ相臨床試験を2022年8月より開始しました。同試験は過活動膀胱治療剤「ベオーバ」の小児への適応拡大を目的としたものです。さらに間質性肺疾患（肺サルコイドーシス）治療薬「KRP-R120」について、杏林製薬㈱はaTyr社（エイタイヤー、本社：米国）と国際共同試験を実施することを決定し、同年9月より、日本国内において第Ⅲ相臨床試験を開始しました。

開発パイプラインの拡充としては、杏林製薬㈱がセルジェンテック㈱（本社：千葉県千葉市）とファブリー病治療を目的とした遺伝子導入ヒト脂肪細胞を用いた再生医療等製品に関する共同開発及び実施権許諾契約を2022年5月に締結し、事業戦略に掲げる希少・難治性疾患の開発品を獲得しました。また同年11月に杏林製薬㈱がサスメド㈱（本社：東京都中央区）と耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発に関する契約を締結しました。当社グループは、耳鼻科領域を重点領域としており、特定の耳鼻科疾患に対する新たな治療選択肢の提供を目指し、治療用アプリの開発に着手しました。

以上の結果、研究開発費は109億03百万円（前期比22.5%増）となりました。

(2) 対処すべき課題

当社グループは、中核会社である杏林製薬㈱の創業100周年に当たる2023年を見据えた長期ビジョン「HOPE100」を策定し、2020年度より長期ビジョンの総仕上げとなる中期経営計画「HOPE100 -ステージ3- (2020年度～2023年度)」を推進してきました。しかしながら、この間、事業を取り巻く外部環境は、毎年の薬価改定（いわゆる中間年改定）等の医療費・薬剤費抑制策のさらなる推進、新型コロナウイルス感染症拡大による受診抑制の影響等、想定外の事象が発生し、当社グループの経営に多大な影響を及ぼしました。他方、内部環境としては、成長ドライバーとして期待する新薬が出揃ったことに加え、診断事業等の新規事業が軌道に乗りつつあり、成長期を迎えたものと捉えられます。このような状況に鑑み、当社グループは当社が創業100周年を迎える2023年度、グループ体制の刷新を行うとともに、長期ビジョン「HOPE100」を1年前倒しで終了し、新長期ビジョン「Vision 110」及び新中期経営計画「Vision 110 -Stage 1-」を策定し、開始することとしました。

①長期ビジョン「Vision 110」（キョーリン製薬グループの目指す姿）

医療ニーズに応える価値の高い新薬を継続的に提供する新医薬品事業を中核に据え、健康関連事業を複合的に展開し、人々の健康に幅広く貢献する企業を目指します。

②中期経営計画「Vision 110 -Stage 1-」（2023年度～2025年度）

長期ビジョン「Vision 110」は、最終年度までの期間を3つのステージ（Stage 1：2023年度～2025年度、Stage 2：2026年度～2029年度、Stage 3：2030年度～2032年度）に分け、その第1段階である、中期経営計画「Vision 110 -Stage 1-」では、Statementに「Vision 110の実現に向けた事業体制への変革」を掲げ、以下の5つの事業戦略を推進し、成果目標の達成とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上を目指します。

【事業戦略】

- (a) 医療ニーズに応える価値の高い新薬の創出力強化
- (b) 導入による開発パイプラインの拡充
- (c) 新薬比率の最大化
- (d) 新医薬品事業と相乗効果のある健康関連事業の推進
- (e) 持続可能な企業基盤の構築

【成果目標（2025年度）】

(a) 数値目標（連結ベース）

成長性：「売上高」年平均成長率+2%以上

収益性：「研究開発費控除前営業利益（営業利益+研究開発費）」対売上高16%以上

(b) 資本政策と株主還元

資本政策においては、健全な財務基盤を維持しつつ、常に資本コスト・資本収益性を意識した上で、成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ることを基本方針とします。株主還元については、DOE（株主資本配当率）を勘案して、安定した配当を継続します。

【中期経営計画「HOPE100 –ステージ3–」の成果と今後の取り組み】

中期経営計画「HOPE100 –ステージ3–」では、ステートメントに「オリジナリティーの追求による成長トレンドの実現」を掲げ、重点項目として新薬群の成長加速、開発パイプラインの拡充、創薬力の強化、コスト競争力の向上に取り組み、成長トレンドへの転換を目指しました。

新薬群の成長加速では、主力製品である喘息治療配合剤「フルティフォーム」、過活動膀胱治療剤「ベオーバ」の普及の最大化、アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」、ニューキノロン系抗菌剤「ラスビック」、咳嗽治療薬「リフヌア」の早期の市場浸透に注力しました。この3年間は、毎年の薬価改定及び新型コロナウイルス感染症拡大による受診抑制等の影響により、当社グループが重点領域とする呼吸器科、耳鼻科等の医療用医薬品市場がマイナス成長となり、予想を下回る実績で推移しました。売上高に対する新薬比率は、目標値50%を下回る42.0%となりました。しかしながら、現在、市場は回復傾向にあることから、コロナ禍で構築したMR活動（訪問面談とデジタルチャネルによる複合的な情報提供活動）により、新中期経営計画では新薬比率の最大化に取り組み、新薬5製品の成長加速に最大限、注力いたします。

開発パイプラインの拡充では、間質性肺疾患治療薬「開発コード：KRP-R120」の第Ⅲ相臨床試験を開始し、ライノウイルス感染症治療薬「KRP-A218」及び過活動膀胱治療薬「KRP-114VP」の第Ⅰ相臨床試験を開始しました。また日本国内における独占的販売権を取得した「リフヌア（一般名：ゲーファピキサントクエン酸塩）」を、2022年4月より販売開始しました。さらに、同年サスメド(株)（本社：東京都中央区）と耳鼻科治療用アプリの共同開発契約を締結しました。他方、「FPR2作動薬プログラム」については、導出先であるブリistol・マイヤーズスクイブ社（本社：米国）が開発戦略上の視点から開発中止を決定したため、同社に付与していた開発権等の返還を受けることになりました。新中期経営計画で

は、導入による開発パイプラインの拡充を最重要課題と位置づけており、資金及び人的資源を最大限に投入することによりライセンス・アライアンス機能を強化し、早期に開発パイプラインの拡充を図ります。

創薬力の強化では、わたらせ創薬センターとActivX社の連携による自社創薬に、国内外の製薬企業、アカデミア、ベンチャー企業とのオープンイノベーションを加えることで、創薬プラットフォームの活性化を進めるとともに、核酸等の新技術の応用・育成に取り組みました。また外部創薬テーマの積極的な探索・導入を行い、ファースト・イン・クラス創薬に向けた活動を展開しました。2017年度に設置した京都大学院医学研究科内「呼吸器疾患創薬講座」において、線維化病態モデルの構築、線維化のトリガーとなる創薬ターゲットなどアカデミアとの連携が成果に繋がる一方で、ルーメン社（本社：米国）とのスピルリナ遺伝子組み換え技術に関する共同研究契約、セルジェンテック株（本社：千葉県千葉市）との遺伝子導入ヒト脂肪細胞を用いた再生医療等製品に関する共同開発契約等を締結し、新たなモダリティにも挑戦しています。なおActivX社については、KiNativ（キナーゼの網羅的解析技術）をプラットフォームとして創薬ターゲットの創出、医薬品候補化合物の創製等、当社グループの研究開発拠点の一つとして事業活動を展開してきましたが、一定の役割を果たしたものと判断し、2023年3月に解散を決議いたしました。新中期経営計画では、アンメットメディカルニーズに応えるため、新規作用機序による創薬に加え、革新的な新技術により価値を創出する創薬にも取り組みます。低分子創薬のみならず、核酸創薬や外部の革新的な技術の活用を積極的に展開することで創薬基盤を強化し、疾患研究との組み合わせによって価値の高い新薬を生み出す創薬イノベーションに挑戦していきます。

コスト競争力の向上では、キョーリンリメディオ株が、後発医薬品事業における新たな営業体制を構築するとともに、追補収載品の自社開発の強化に努めました。キョーリン製薬グループ工場株は、新医薬品・後発医薬品の安定供給と低コストの実現に取り組みました。そのような環境下、医薬品の生産需要の増加に伴い、当社グループ全体として製品供給能力の強化が必要となったことから、高岡工場の建設を決定し2022年9月に着工しました。今後は、2024年4月（予定）の稼働に向け高岡工場の建設を強力に推し進めるとともに、安定供給と低コスト生産を実現する製造体制の構築を目指します。医薬品業界では製造・品質管理に関わる法令遵守及び品質管理体制の一層の強化・徹底とともに安定供給の維持・強化が求められています。当社グループは全ての事業会社が一丸となって、GMP（医薬品等の製造管理及び品質管理の基準）などの法令遵守の徹底を図るとともに、品質管理体制のより一層の強化に努めました。今後とも、医療用医薬品に関わる製造・品質管理につきましては、信頼性の確保に最大限注力し、高品質で安心・安全な製品の提供を推進します。

当中期経営計画における経営指標とした「売上高」年平均成長率+5%については、+1.0%の成長率、「研究開発費控除前営業利益」対売上高20%以上については、対売上高14.2%と、いずれも未達となりました。新中期経営計画では、成果目標として「売上高」年平均成長率+2%以上、「研究開発費控除前営業利益」対売上高16%以上に設定し、2026年3月期の数値目標達成に向けて邁進いたします。

[杏林製薬株式会社の吸収合併及び商号の変更]

当社グループを取り巻く事業環境としましては、新薬創製の難易度が高まり膨大な研究開発投資が必要となるだけでなく、幅広い製品を対象とした薬価改定が毎年実施され、当社グループの経営に多大な影響を与えました。

このような急激な環境変化と当社の置かれた状況に鑑み、事業推進機能及び経営効率の向上を図ることを目的として、当社グループが創業100周年を迎える2023年度にグループ体制の刷新を行いました。当社は、2023年4月1日付で当社グループの主たる事業子会社である杏林製薬(株)を当社に吸収合併するグループ内再編により純粋持株会社体制から事業持株会社体制に移行するとともに、同日付で当社の商号を「杏林製薬株式会社」に変更しました。新医薬品事業をグループ経営の中核に据えて強力に推進するとともに、健康関連事業を複合的に展開し、次の100年に向けて更なる飛躍を目指します。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(3) 企業集団の設備投資の状況

当連結会計年度において実施した企業集団の設備投資額は52億52百万円であり、その主なものは工場などの製造設備への投資であります。

(4) 企業集団の資金調達の状況

当連結会計年度において、新株式発行、社債発行及び重要な借入れ等の資金調達は行っておりません。

(5) 財産及び損益の状況

① 企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第62期	第63期	第64期	第65期
	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	(当連結会計年度) 2023年3月期
売上高 (百万円)	109,983	102,904	105,534	113,270
経常利益 (百万円)	8,175	6,447	5,569	5,827
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	6,149	6,130	3,932	4,723
1株当たり当期純利益	107円35銭	106円99銭	68円62銭	82円44銭
総資産 (百万円)	171,160	167,126	171,924	176,045
純資産 (百万円)	122,710	124,661	124,507	125,461

- (注) 1. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第64期の期首から適用しており、第64期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

② 当社の財産及び損益の状況

区 分	第62期	第63期	第64期	第65期
	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	(当事業年度) 2023年3月期
営業収益 (百万円)	7,244	7,189	6,575	5,853
経常利益 (百万円)	4,482	4,585	3,960	2,975
当期純利益 (百万円)	4,476	4,516	3,919	3,005
1株当たり当期純利益	77円11銭	77円80銭	67円51銭	51円78銭
総資産 (百万円)	95,126	95,391	95,619	99,304
純資産 (百万円)	64,642	64,812	64,952	64,935

- (注) 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

(6) 重要な親会社及び子会社の状況

① 重要な子会社の状況

会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
杏林製薬株式会社	4,317百万円	100.0%	医薬品の製造販売
キョーリンリメディオ株式会社	1,200百万円	100.0%	医薬品の製造販売
キョーリン製薬グループ工場株式会社	350百万円	100.0%	医薬品の製造及び試験
ActivX Biosciences, Inc.	1米ドル	100.0%	2023年3月に解散を決議し、現在清算手続き中

(注) 当連結会計年度において、連結子会社であったKyorin Europe GmbHは解散を決議し、連結計算書類に重要な影響を及ぼさないことから、連結の範囲から除外し、非連結子会社としております。

② 特定完全子会社の状況

当事業年度末日における特定完全子会社の状況は、次のとおりであります。

特定完全子会社の名称	杏林製薬株式会社
特定完全子会社の住所	東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
当社及び当社の完全子会社における特定完全子会社の株式の帳簿価額	69,109百万円
当社の総資産額	99,304百万円

③ 重要な関連会社の状況

会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
日本理化学薬品株式会社	411百万円	29.9% (間接所有29.9%)	医薬品の製造販売

(7) 主要な事業内容

当社は、グループ統轄会社としてグループ全体の経営戦略機能を担い、経営資源の効率的な配分や運用を行うことでキョーリン製薬グループ全体の総合力を発揮することに努めております。

当社グループは、当社、子会社4社及び関連会社1社により構成されており、主な事業内容は次のとおりであります。

・医薬品事業

杏林製薬(株)は医薬品の製造、販売と仕入を行っております。医薬品原材料の一部については関連会社である日本理化学薬品(株)より仕入を行っております。

キョーリンリメディオ(株)は、医薬品の製造、販売と仕入を行っております。

キョーリン製薬グループ工場(株)は、医薬品の製造及び試験を行っております。

ActivX Biosciences, Inc.は2023年3月に解散を決議し、清算手続き中です。

(8) 主要な営業所及び工場（2023年3月31日現在）

名 称		所 在 地
当 社	本 社	東京都千代田区
杏 林 製 薬 株 式 会 社	本 社	東京都千代田区
	支 店	北海道（北海道）、東北（宮城県）、関越（埼玉県）、東京（東京都）、首都圏（神奈川県）、東海北陸（愛知県）、関西（大阪府）、中国四国（広島県）、九州（福岡県）
	研 究 所	わたらせ創薬センター（栃木県）
	配送センター	東日本（埼玉県）、西日本（京都府）
キョーリンリメディオ株式会社	本 社	石川県金沢市
	研 究 所	富山県高岡市
キョーリン製薬グループ工場株式会社	本 社	東京都千代田区
	工 場	秋田県能代市、滋賀県甲賀市、富山県南砺市
ActivX Biosciences, Inc.	本 社	米国 カリフォルニア州
日 本 理 化 学 薬 品 株 式 会 社	本 社	東京都中央区

(9) 従業員の状況

① 企業集団の従業員の状況

区 分	従 業 員 数	前連結会計年度末比増減
医薬品事業	2,138名	84名減

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 当社グループは、医薬品事業のみの単一セグメントであるため、グループ全体での従業員数を記載しております。

② 当社の従業員の状況

従 業 員 数	前 期 末 比 増 減	平 均 年 齢	平 均 勤 続 年 数
117名	2名増	47.9歳	21.2年

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 平均勤続年数は、出向元である杏林製薬(株)等における勤続年数を通算しております。

(10) 主要な借入先の状況

借 入 先	借 入 額 (百万円)
株式会社みずほ銀行	20,078
株式会社北國銀行	388
株式会社北陸銀行	388
株式会社三菱UFJ銀行	80

(11) その他企業集団の現況に関する重要な事項

当社は、2022年5月11日開催の取締役会において2023年4月1日を効力発生日として、当社を吸収合併存続会社、当社の完全子会社である杏林製薬(株)を吸収合併消滅会社とする吸収合併をすることを決議し、同日付で吸収合併契約を締結いたしました。なお、2023年4月1日付で本合併を実施しております。

また、当社は2023年4月1日付で商号を「キョーリン製薬ホールディングス株式会社」から「杏林製薬株式会社」へ変更いたしました。

2. 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 297,000,000株
 (2) 発行済株式の総数 58,146,209株 (自己株式 6,461,727株を除く)
 (3) 株 主 数 13,888名
 (4) 大 株 主 (上位10名)

株 主 名	持 株 数 (千株)	持 株 比 率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	6,532	11.23
株 式 会 社 マ イ カ ム	4,843	8.32
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	3,078	5.29
キ ョ ー リ ン 製 薬 グ ル ー プ 持 株 会	2,229	3.83
株 式 会 社 バ ン リ ー ナ	1,950	3.35
株 式 会 社 ア ー チ ャ ン ズ	1,950	3.35
荻 原 豊	1,875	3.22
荻 原 万 里 子	1,760	3.02
科 研 製 薬 株 式 会 社	1,602	2.75
荻 原 明	1,594	2.74

- (注) 1. 持株比率は、自己株式6,461,727株を除いて計算しております。
 2. 自己株式には、「株式給付信託 (BBT)」導入に伴い、(株)日本カストディ銀行 (信託E口) が所有する91,938株は含まれておりません。
 3. 自己株式には、当社子会社杏林製薬(株)における「株式給付信託 (J-ESOP)」導入に伴い、(株)日本カストディ銀行 (信託E口) が所有する743,505株は含まれておりません。

- (5) 当事業年度中に職務執行の対価として会社役員に交付した株式の状況

	株 式 数	交 付 対 象 者 数
取 締 役 (社 外 取 締 役 を 除 く)	78株	1名

- (6) その他株式に関する重要な事項
 該当ありません。

3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当ありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等（2023年3月31日現在）

氏名	地位及び担当	重要な兼職の状況
穂川 稔	代表取締役会長	杏林製菓(株)代表取締役会長
荻原 豊	代表取締役社長 グループ監査室担当	杏林製菓(株)取締役
荻原 茂	専務取締役	杏林製菓(株)代表取締役社長
大野田 道郎	取信頼性締保証担当	キョーリン製菓グループ工場(株) 代表取締役社長 杏林製菓(株)取締役
萩原 幸一郎	取締役 グループ知的財産統轄部・グループ法務統轄部・研究開発担当	杏林製菓(株)取締役
柳島 盛雄	取締役 医薬営業・ヘルスケア事業担当	杏林製菓(株)取締役
鹿内 徳行	取締役	弁護士 京橋法律事務所
重松 健	取締役	—
渡邊 弘美	取締役	医師 社会福祉法人 高齢者保健医療総合センター 浴風会病院 下高井戸駅前クリニックみみはなのどプラス 副院長
松本 臣春	常勤監査役	杏林製菓(株)監査役
阿久津 賢二	常勤監査役	—
山口 隆央	監査役	公認会計士 山口公認会計士事務所 所長 東京建物(株)社外監査役
池村 幸雄	監査役	(株)大垣共立銀行社外監査役
森田 憲右	監査役	弁護士 あぼろ法律事務所 筑波大学 ビジネスサイエンス系教授

- (注) 1. 取締役鹿内徳行、重松健、渡邊弘美の各氏は、社外取締役であります。
 2. 監査役山口隆央、池村幸雄、森田憲右の各氏は、社外監査役であります。
 3. 取締役鹿内徳行、重松健、渡邊弘美の各氏及び監査役山口隆央、池村幸雄、森田憲右の各氏は、(株)東京証券取引所に独立役員として届け出ております。
 4. 会社役員の変動状況は、次のとおりであります。
 (2022年6月17日付)
 ・池村幸雄氏は、大崎再開発ビル(株)の取締役を退任いたしました。
 (2022年6月21日付)
 ・池村幸雄氏は、(株)大垣共立銀行の監査役に選任され、就任いたしました。
 (2022年6月24日付)
 ・柳島盛雄氏は、当社の取締役に新たに選任され、就任いたしました。
 ・阿久津賢二、池村幸雄、森田憲右の各氏は、当社の監査役に新たに選任され、就任いたしました。
 ・取締役杉林正英氏は、当社の取締役を退任いたしました。

- ・監査役玉置修吾、小幡雅二、亀井温裕の各氏は、当社の監査役を退任いたしました。(2023年3月30日付)
 - ・監査役山口隆央氏は、ライオン㈱の監査役を退任いたしました。
5. 監査役山口隆央氏は、公認会計士、税理士として財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
6. 社外役員の兼職先と当社との関係
- ・京橋法律事務所、山口公認会計士事務所及びあぼろ法律事務所と当社との間には、記載すべき取引関係その他の関係はありません。
 - ・社会福祉法人高齢者保健医療総合センター浴風会病院、下高井戸駅前クリニックみみはなのどプラス、東京建物㈱、㈱大垣共立銀行及び筑波大学と当社との間には、購入、販売等の取引関係はありません。

なお、執行役員は以下のとおりであります。

執行役員 橋爪 浩 (キョーリンリメディオ㈱代表取締役社長)

執行役員 下川泰幸 (グループ総務人事統轄部長)

執行役員 黒瀬保至 (グループ経営企画統轄部長)

(2)役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、当社及び子会社の取締役、監査役、執行役員等を被保険者として、保険会社との間で役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により補填することとしております。ただし、私的な利益または便宜の供与を違法に得たことに起因して生じた損害は補填されない等の免責事由があります。

なお、当該契約の保険料は当社及び各子会社が全額負担しています。

(3)取締役及び監査役との補償契約の内容の概要

該当ありません。

(4)取締役及び監査役の報酬等

①取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社グループの持続的かつ安定的な成長による企業価値向上に寄与する報酬とすることを基本方針とし、具体的には金銭を給付する「基本報酬」と当社株式等を給付する「株式報酬」の2つの報酬で構成しております。

「基本報酬」は、経済・社会の情勢及び世間水準を背景に役位ごとに適切な給付水準を定めるとともに、会社の状況とそれに対する各役員の成果責任を反映させる報酬体系としております。また、「株式報酬」は、株式給付信託の仕組みを採用しており、中期経営計画の期間を対象に、毎年、会社及び各役員の業績に連動する株式給付ポイントを付与し、当該期間終了後（給付対象となる役員が退任した場合には、当該役員の退任時）に累積ポイントに応じて当社の普通株式等（一定の要件を満たす場合には、一定割合について時価で換算した金額相当の金銭）を給付することとしております。中長期の業績の安定及び向上を重視する観点から、「株式報酬」の割合が過度にならないよう、最大でも10%となるように設定しております。

社外取締役については、経営の監督機能を十分に機能させるため、報酬は毎年の業績と連動しない「基本報酬」のみとし、「株式報酬」は対象外としております。

「基本報酬」及び「株式報酬」の額については、株主総会で決議された報酬等の限度内において、それぞれの決定方針に従って算定され、独立社外取締役が過半数を占める任意の「報酬・指名に関する委員会」にて恣意的な判断の介入の有無や参考とする統計データ等を検証することにより、その決定プロセスの客観性・透明性が確認された後、取締役会から委任を受けた代表取締役社長が決定しております。取締役会は、任意の「報酬・指名に関する委員会」による当該モニタリングをもって、取締役の個人別の報酬等の内容が当該方針に沿うものであると判断しております。

上記の取締役の報酬等の決定方針につきましては、2016年5月12日開催の取締役会にて決議しております。

②取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

当社の役員の報酬等に関する株主総会の決議については、2006年6月22日開催の定時株主総会において取締役及び監査役の報酬等の上限額が決議されております。内容は、取締役の年額を500百万円以内・監査役の年額を60百万円以内（ただし、連結子会社からの報酬や使用人部分の給与等を除く）とするもので、当該定時株主総会終結時点の員数は取締役11名・監査役5名となっております。

また、2016年6月24日開催の定時株主総会において、当社及び当社子会社の取締役（社外取締役を除く）を対象とする業績連動型株式報酬制度の導入が決議されております。1事業年度当たりの上限は、当社の取締役分として13,000ポイント、当社子会社の取締役分として12,000ポイント、合算して25,000ポイント（1ポイント：当社普通株式1株換算）であり、4事業年度に対応する必要資金として総額250百万円を上限として金銭を拠出して信託を設定するもので、当該定時株主総会終結時点の員数は取締役（社外取締役を除く）8名となっております。

③取締役の個人別の報酬等の決定に係る委任に関する事項

当社においては、当社全体の業績を俯瞰しつつ各取締役の担当事業の評価を行うには代表取締役が最も適しているため、取締役会の決議により代表取締役社長 荻原豊（グループ監査室担当）に各取締役の報酬額（株式給付ポイントを含む）の決定を委任しております。上記報酬制度及び決定方針に従って算定され、独立社外取締役が過半数を占める任意の「報酬・指名に関する委員会」においてモニタリングを受けた報酬案に基づき、委任を受けた代表取締役社長が、取締役の個人別の報酬額の具体的内容を最終決定しております。

④当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の総額等

区分	対象となる 役員の人数（名）	報酬等の種類別の総額（単位：百万円）		計
		基本報酬	株式報酬	
取締役	9	204	8	212
（うち社外取締役）	（3）	（31）	-	（31）
監査役	8	50	-	50
（うち社外監査役）	（5）	（17）	-	（17）

- (注) 1. 取締役の従業員給与はありません。
 2. 上記の額と員数には、2022年6月24日付で退任した取締役1名、監査役3名を含んでおります。
 3. 上記の員数には、無報酬の取締役1名を含んでおりません。
 4. 上記株式報酬は、業績に連動する報酬です。当社グループの業績との連動性を明確にし、中長期的な業績の成長と企業価値の向上に貢献する意識を高めることを目的に選定した成長性や収益性の指標として当該年度の売上高（連結）や当期純利益（連結）の目標達成度を定量的な指標とし、また、各役員の業績を定性的な指標として加味し、株式給付ポイントを算定しております。定量的指標である連結業績は前期決算発表時に公表する連結業績予想数値を目標とし、定性的指標については中長期的な視点を踏まえ、中期経営計画に連動して毎年立案する実行プログラムを目標としております。
 5. 当期の株式報酬に関する定量的指標の実績は下記のとおりです。
 2022年3月期 売上高（連結） 105,534百万円（目標達成度 102.9%）
 当期純利益（連結） 3,932百万円（目標達成度 145.6%）

(5) 社外役員に関する事項

① 社外取締役

当事業年度における主な活動状況と期待される役割に関して行った職務の概要

社外取締役氏名	主な活動状況と期待される役割に関して行った職務の概要
鹿内 德行	当期開催の取締役会13回の全てに出席し、弁護士としての高度な専門性と豊富な経験を活かし、主に法的な観点から会社経営に関する提言や助言を適宜行い、当社及びグループ会社の経営の重要事項の決定及び業務執行の監督等に十分な役割を果たしております。
重松 健	当期開催の取締役会13回の全てに出席し、会社経営についての豊富な経験と幅広い見識を活かし、社会環境の変化に対応した経営に関する提言や助言を適宜行い、当社及びグループ会社の経営の重要事項の決定及び業務執行の監督等に十分な役割を果たしております。
渡邊 弘美	当期開催の取締役会13回の全てに出席し、医師としての医療現場における幅広い見識を活かすとともに、多様性の一つである女性の活躍推進の観点から提言や助言を適宜行い、当社及びグループ会社の経営の重要事項の決定及び業務執行の監督等に十分な役割を果たしております。

② 社外監査役

当事業年度における主な活動状況

社外監査役氏名	主 な 活 動 状 況
山口 隆央	当期開催の取締役会13回、監査役会13回の全てに出席し、必要に応じ、主に公認会計士、税理士として財務及び会計に関する専門的見地から発言を行っております。
池村 幸雄	2022年6月24日の就任以来開催の取締役会9回、監査役会10回の全てに出席し、適宜取締役会の意思決定の適正を確保するための発言を行っております。また、監査役会では、経験と見識に基づき、適宜発言を行っております。
森田 憲右	2022年6月24日の就任以来開催の取締役会9回のうち8回、監査役会10回のうち9回に出席し、必要に応じ、主に弁護士としての専門的見地から発言を行っております。

5. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

区分	監査業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬
当社の当期に係る報酬等の額	24百万円	—
子会社の当期に係る報酬等の額	30百万円	—
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	54百万円	—

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を区分しておりませんので、上記「監査業務に基づく報酬」にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、前期の監査実績の評価及び分析、会計監査の職務遂行状況並びに報酬見積りの算出根拠の相当性について必要な検証を行ったうえ、会計監査人の報酬等の額について同意いたしました。
3. 非監査業務とは、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務のことを指します。
4. 上記のほか、当社及び当社の子会社であるKyorin Europe GmbHは、当社の会計監査人と同一のネットワークに属するEY税理士法人、Ernst & Young GmbHに対して税務及び関係業務の報酬として総額6百万円を計上しております。

(3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任します。この場合、監査役会が選定した監査役が、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

また、監査役会は、会計監査人が職務を適切に執行することが困難であると認められる場合、その他必要と判断される場合には、会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会は当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出いたします。

(4) 会計監査人との補償契約の内容の概要

該当ありません。

6. 会社の体制及び方針

(1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制 その他業務の適正を確保するための体制

当社は、取締役会において上記体制につき、次のとおり決議いたしました。

①取締役及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

企業は、公正かつ自由な競争の下、社会に有用な付加価値及び雇用の創出と自律的で責任ある行動を通じて、持続可能な社会の実現を牽引する役割が求められる。当社は「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念の下、国の内外を問わず、関係法令、国際ルール及びその精神を遵守し、高い倫理観をもって行動することを目指し、「キョーリン製薬グループ企業行動憲章」を制定し、その行動憲章を補完し具体的な行動基準を明確化するため「キョーリン製薬グループ・コンプライアンス・ガイドライン」を示している。

当社は、キョーリン製薬グループ（以下、グループという）のコンプライアンスの取り組みを横断的に統括する組織としてコンプライアンス担当役員または担当執行役員を委員長とし、内部監査部門の部門長も委員として参加する「コンプライアンス委員会」を設置する（原則毎月1回開催）。「コンプライアンス委員会」では当社が強固なコンプライアンス体制を確立し、健全かつ正当な事業運営を行うよう「企業倫理・コンプライアンス規程」を制定する。コンプライアンス推進については「キョーリン製薬グループ・コンプライアンス・ガイドライン」により役職員がそれぞれの立場でコンプライアンスを自らの問題として捉え業務運営にあたるよう、研修等を通じ指導する。

また、財務報告の適正性を確保するために社内規程を制定し、グループの財務報告に係る内部統制の有効性と信頼性を確保できる体制を構築する。

当社及びグループ会社は反社会的勢力に対し毅然とした態度で臨み、取引関係はもとより一切の関係遮断に努め、所管警察や顧問弁護士等との連携をとり、当該勢力による被害の防止に努める。

当社及びグループ会社のコンプライアンス違反行為等について内部通報・相談窓口として「企業倫理ホットライン」を設置するが、通報内容を秘守し、通報者に対して不利益な扱いを行わない。

「コンプライアンス委員会」及び監査役は、日頃から連携の上、グループのコンプライアンス体制及びコンプライアンス上の問題の有無の把握に努める。

②取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社及びグループ会社は、組織規程、業務分掌規程、職務権限規程（職務権限・決裁基準）及び取締役会規則に基づき、取締役の職務分担を定める。

取締役会は月1回の開催を原則とし、業務執行に関する重要事項の決定、取締役の職務の執行を監督する場として、十分な議論と時宜を得た意思決定を図る。

監査役会は、監査・監督機能を充分発揮して、取締役会の意思決定に係る透明性の確保に努める。

取締役会の機能をより補完し、経営効率を向上させるため、経営会議を原則毎月2回開催して業務執行に関する基本事項及び重要事項に係る意思決定を機動的に行う。

業務運営については、将来の事業環境を踏まえ、グループとしての中長期経営計画及び年度計画を立案設定し、全体の目標達成に向け、具体策を立案・実行する。

また、執行役員制度を導入して「経営の意思決定及び業務執行の監督機能」と「業務執行機能」を分離し、経営の意思決定とラインのオペレーションのスピードアップを図る。

当社は、「継続的な企業価値の向上」を経営の最重要事項として、その実現のために意思決定の迅速化、企業倫理に根ざした企業活動、企業活動の透明性の確保などに取り組んでいく。

③取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の意思決定その他の職務の執行及び取締役に対する報告に関する情報については、文書管理規程、その他の関連する社内規程に基づき、適切に作成・保存・管理する。

④監査役がその職務を補助すべき従業員（以下、「監査役スタッフ」という）を置くことを求めた場合の当該監査役スタッフに関する事項及び監査役スタッフの取締役からの独立性に関する事項

監査役が求めた場合、業務補助のためもっぱら監査役の指揮命令に従う監査役スタッフを置くこととし、その人事は取締役と監査役が調整する。

⑤取締役及び従業員が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

当社及びグループ会社の役職員は、会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実、または、法令・定款に違反する行為などを知ったときは直ちに監査役に報告する。

また、報告を行った者に対し、当該報告をしたことを理由にして不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を役職員に周知徹底する。

常勤監査役は、取締役会の他、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、「経営会議」、「コンプライアンス委員会」や「リスク管理委員会」などの重要な会議に出席するとともに、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて役職員にその説明を求めることとする。

なお、監査役の監査が実効的に行われることを確保するため、監査役は当社の会計監査人から会計監査内容について説明を受け、情報の交換を行うとともに内部監査部門とも連携し、適切な意思疎通と効果的な監査業務の遂行を図る。

監査役は、グループ各社の監査についても連結経営の視点を踏まえて、グループ各社の役職員と緊密な連携を保ち、監査の効率化を図る。

また、役職員は、監査役監査に対する理解を深め、監査役監査の環境を整備するよう努める。

⑥損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社及びグループ会社は、リスク発生を予防する管理体制の整備及び発生したリスクに対し会社の損害を最小にするため「リスク管理規程」を制定する。

グループ全体のリスク管理の取り組みを横断的に統括する組織として「リスク管理委員会」を設置し、予想されるリスクの洗い出しとリスクの軽減、未然防止体制の構築並びにやむなく発生したリスクによる損害を最小限にするため、該当部署に対し対応マニュアルの整備や対応訓練等必要な措置をとる。

内部監査部門は、各部署の日常的なリスク管理状況を監査し、その結果を社長に報告するとともに「リスク管理委員会」へも報告する。

また、当社は、企業が社会・環境問題等のE S G（環境・社会・統治）の課題をはじめとするサステナビリティを巡る課題に適切に配慮・対応することが、持続可能な社会の形成に寄与するとの認識のもと、企業行動憲章に基づく事業活動を通じて、サステナビリティ課題への積極的、能動的な対応に取り組み、環境面からも社会に貢献する。

有事においては社長を本部長とする「有事対策本部」を設置し、危機管理にあたる。

⑦当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ会社においても「企業行動憲章」及び「コンプライアンス・ガイドライン」を当社に準じて制定し、グループ全体として統一された方向観をもって行動する。

また、「企業倫理・コンプライアンス規程」及び「リスク管理規程」を制定、「コンプライアンス委員会」、「リスク管理委員会」を設置し、それらの統括は、当社が行い、グループ全体として適正な業務運営に支障が出ることのないように努める。

なお、グループ会社の管理にあたっては、「関係会社管理規程」を制定し、その経営等は自主性を尊重しつつ、事業内容の定期的な報告と重要案件についての事前協議を行う指導体制を構築する。

また、内部監査部門は、「内部監査規程」に基づきグループ会社の監査を実施し、監査結果に基づいて、必要があるときは、統括部署が指示、勧告または適切な指導を行う。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当事業年度における運用状況の概要は以下のとおりであり、適切に運用しております。

- ①取締役会を原則月1回開催し、グループの重要事項の決定等を行っております。また、経営会議を原則月2回開催し、グループの重要事項の審議等を行っております。
- ②金融商品取引法等に基づく財務報告に係る内部統制システムを整備・運用しております。現時点で会計監査人から重要な不備の指摘は受けておりません。
- ③内部監査部門がグループの内部監査を実施しております。
- ④監査役は、重要な会議への出席のほか、内部監査部門、会計監査人と適宜会合を行うとともに、代表取締役、取締役等との面談・情報交換も実施しております。
- ⑤コンプライアンス委員会を原則月1回開催し、グループのコンプライアンス推進活動の状況、内部通報・相談窓口「企業倫理ホットライン」の内容・対応等につき、報告等を行っております。
- ⑥リスク管理委員会を原則月1回開催し、グループの予想されるリスクの洗い出しとリスクの軽減、発生したリスクへの対応による損害を最小限にするため、該当部署に対し対応マニュアル（緊急時初動対応手順書等）の整備や対応訓練（緊急時初動対応訓練、安否確認訓練等）等を行っております。

(3) 剰余金の配当等の決定に関する方針

中期経営計画「Vision 110 -Stage 1-」では、健全な財務基盤を維持しつつ、常に資本コスト・資本収益性を意識した上で、成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ることを基本方針とします。株主還元については、DOE（株主資本配当率）を勘案して、安定した配当を継続します。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は取締役会にあります。

当事業年度の配当金につきましては、2023年3月31日現在の株主の皆様に対して、1株につき配当金32円00銭（前期32円00銭）をお支払いさせていただくことにいたしました。この結果、中間配当20円00銭（前期20円00銭）を含めた年間配当は、1株52円00銭となりました。

内部留保金については、資本コストや資本収益性を意識しつつ、製薬企業の生命線である創薬及び研究開発投資をはじめ、製品導入・新規事業の獲得、設備投資などの原資として、企業体質の強化と将来の事業展開に向けて積極的に投資し、中長期的なグループ企業価値の向上に努めてまいります。

※事業報告に記載の杏林製薬(株)は2023年4月1日付で当社と合併した旧杏林製薬(株)を指します。

連結貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	119,030	流 動 負 債	34,983
現金及び預金	19,394	支払手形及び買掛金	13,762
受取手形	1,816	短期借入金	10,300
売掛金	45,475	リース債務	134
契約資産	9	未払法人税等	2,027
商品及び製品	19,074	賞与引当金	2,182
仕掛品	9,079	その他	6,576
原材料及び貯蔵品	19,872		
その他	4,349	固 定 負 債	15,600
貸倒引当金	△41	長期借入金	10,636
固 定 資 産	57,014	リース債務	207
有 形 固 定 資 産	25,834	株式給付引当金	466
建物及び構築物	12,179	退職給付に係る負債	3,721
機械装置及び運搬具	4,435	その他	568
土地	2,830		
リース資産	180	負 債 合 計	50,584
建設仮勘定	4,760	純 資 産 の 部	
その他	1,448	株 主 資 本	122,182
無 形 固 定 資 産	5,393	資本金	700
ソフトウェア	358	資本剰余金	4,752
その他	5,034	利益剰余金	134,396
投 資 そ の 他 の 資 産	25,785	自己株式	△17,666
投資有価証券	22,979	その他の包括利益累計額	3,278
繰延税金資産	1,316	その他有価証券評価差額金	5,695
その他	1,519	為替換算調整勘定	340
貸倒引当金	△29	退職給付に係る調整累計額	△2,756
		純 資 産 合 計	125,461
資 産 合 計	176,045	負 債 ・ 純 資 産 合 計	176,045

連結損益計算書

(自 2022年4月1日)
(至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	113,270
売上原価	63,102
売上総利益	50,167
販売費及び一般管理費	45,043
営業利益	5,123
営業外収益	
受取利息及び配当金	465
その他の営業外収益	333
営業外費用	
支払利息	66
その他の営業外費用	27
経常利益	5,827
特別利益	
固定資産売却益	10
投資有価証券売却益	685
保険差益	881
受取損害賠償金	401
特別損失	
固定資産除売却損	25
投資有価証券売却損	1
投資有価証券評価損	9
減損損失	257
関係会社整理損	605
税金等調整前当期純利益	6,906
法人税、住民税及び事業税	2,462
法人税等調整額	△279
当期純利益	4,723
親会社株主に帰属する当期純利益	4,723

連結株主資本等変動計算書

(自 2022年4月1日)
(至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当 期 首 残 高	700	4,752	132,710	△17,671	120,491
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△3,023		△3,023
親会社株主に帰属する当期純利益			4,723		4,723
連結範囲の変動			△13		△13
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分				4	4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当 期 変 動 額 合 計	-	-	1,686	4	1,690
当 期 末 残 高	700	4,752	134,396	△17,666	122,182

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額				純 資 産 合 計
	その他有価証券評価差額金	為 替 換 算 勘 定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当 期 首 残 高	6,268	110	△2,362	4,016	124,507
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当					△3,023
親会社株主に帰属する当期純利益					4,723
連結範囲の変動					△13
自己株式の取得					△0
自己株式の処分					4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△572	229	△394	△737	△737
当 期 変 動 額 合 計	△572	229	△394	△737	953
当 期 末 残 高	5,695	340	△2,756	3,278	125,461

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

①連結子会社の状況

連結子会社の数	4社
連結子会社の名称	杏林製薬（株） キョーリンリメディオ（株） キョーリン製薬グループ工場（株） ActivX Biosciences, Inc.

②非連結子会社の状況

非連結子会社の数	2社
非連結子会社の名称	Kyorin USA, Inc. Kyorin Europe GmbH

連結の範囲から除いた理由

Kyorin USA, Inc.及びKyorin Europe GmbHは、それぞれ2020年3月、2023年3月に解散を決議し、連結計算書類に重要な影響を及ぼさないことから、連結の範囲から除外し、非連結子会社としております。なお、両社は連結決算日現在清算手続き中であります。

(2) 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の状況

持分法適用の関連会社数	1社
持分法適用の関連会社の名称	日本理化学薬品（株）

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のActivX Biosciences, Inc.の決算日は12月31日であります。

従来、連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の計算書類を使用しておりましたが、当連結会計年度においては、2023年3月において解散を決議したことにより、連結決算日現在清算手続き中であり、解散決議後の財政状態及び経営成績を反映させるため、2023年3月末までの15か月を連結の対象としております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの… 決算日の市場価格等に基づく時価法
 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、
 売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等…………… 移動平均法による原価法

ロ. 棚卸資産

商品及び製品、仕掛品、原材料及び

貯蔵品の一部 (見本品) …………… 主に総平均法による原価法
 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿
 価切下げの方法により算定)

貯蔵品…………… 最終仕入原価法

② 重要な減価償却資産の減価償却方法

イ. 有形固定資産…………… 定額法

(リース資産を除く)

ロ. 無形固定資産…………… 定額法

(リース資産を除く)

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (3～5年) による定額法を採用しております。

ハ. リース資産…………… リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

- イ. 貸倒引当金…………… 売掛債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ. 賞与引当金…………… 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- ハ. 株式給付引当金…………… 株式給付信託（J-ESOP）による当社株式の給付に備えるため、株式給付規程に基づき、従業員に割り当てられたポイントに応じた当社株式及び金銭の給付見込額を計上しております。
株式給付信託（Board Benefit Trust）による当社株式の給付に備えるため、役員株式給付制度規程に基づき、グループ役員に割り当てられたポイントに応じた当社株式及び金銭の給付見込額を計上しております。

④ 退職給付に係る資産及び負債の計上基準

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込み額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。

なお、年金資産の額が退職給付債務の額を超過している場合は退職給付に係る資産として計上しております。

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

⑤ 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

在外子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

⑥ 収益及び費用の計上基準

当社グループは、医薬品等の販売による収益及び製品の研究開発、製造、販売、技術の使用を第三者に認めた契約等に基づくロイヤリティ収入・役務収益を得ており、移転を約束した財又はサービスに対する支配を顧客が獲得した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

(医薬品等の販売による収益)

医薬品等の販売による収益は、医薬品等に対する支配を顧客に移転することにより履行義務が充足されるときに認識することとなりますが、当社グループにおける医薬品等の国内の販売において、出荷時から当該医薬品等の支配が顧客に移転されるときまでの期間が通常の期間であるため、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項を適用して出荷時に収益を認識しております。

取引価格の算定については、顧客との契約において約束された対価から売上割戻し等を控除した金額で算定しております。

なお、特約店に支払われる販売奨励金等の対価について、一部を取引価格から減額しております。

また、返品が見込まれる販売につきましては、変動対価に関する定めに従って、販売時に収益を認識しておりません。

(ロイヤリティ収入・役務収益)

ロイヤリティ収入・役務収益につきましては、ライセンス契約等（特許、ノウハウに基づく第三者への医薬品等の研究開発、製造、販売権の許諾または譲渡）による契約一時金、開発マイルストーン、販売マイルストーン、ロイヤリティ収入及び、研究開発に係る評価に対する役務収益とその評価技術のライセンス供与へのロイヤリティ収入等が含まれております。ライセンス契約等における契約一時金、開発マイルストーン、販売マイルストーンに係る収入は、履行義務が一時点で充足される場合には、開発権・販売権等を付与した時点、又は、契約上定められたマイルストーンが達成された時点で売上収益として認識しております。履行義務が一定期間にわたり充足される場合には、当該

対価を契約負債として計上し、個々の契約ごとに決定した履行義務の充足に関する進捗度の測定方法に従い、契約一時金、マイルストーンによる収入を予想される契約期間等の一定期間にわたり売上収益として認識することとしております。知的財産のライセンス供与に対して受け取る対価が売上高又は使用量に基づく販売ロイヤリティに係る収入は、顧客の売上収益等の発生と履行義務の充足のいずれか遅い時点で、売上収益として認識しております。

これらの履行義務に対する対価は、履行義務充足後、別途定める支払条件により概ね1年以内に受領しており、重大な金融要素は含んでおりません。

⑦ グループ通算制度の適用

当社及び国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しております。

2. 会計方針の変更等に関する注記

時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる連結計算書類に与える影響はありません。

3. 会計上の見積りに関する注記

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当年度の連結計算書類に計上した金額

当連結会計年度に計上した繰延税金資産額	1,316百万円
(繰延税金負債と相殺前の繰延税金資産額)	4,897百万円)

(2) 連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

① 当年度の連結計算書類に計上した金額の算出方法

将来減算一時差異に対して、将来の収益力に基づく課税所得及びタックス・プランニング等により、繰延税金資産の回収可能性を判断しております。

② 当年度の連結計算書類に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

課税所得の見積りは主に市場価格（仕切価）等を織り込んだ事業計画に基づいておりま

す。

薬価制度改革の基本方針に沿った毎年の薬価改定等の実施や薬剤費抑制策のさらなる推進による市場成長率の推移、原材料・エネルギー等のコスト上昇は、当社グループの事業活動に影響を及ぼしており、当事業年度末時点で入手可能な外部の情報等を踏まえて、課税所得の見積りの基礎となる事業計画に当該影響を織り込んでおります。

③ 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

課税所得が生じる時期及び金額は、当社グループの中核となる医療用医薬品事業を取り巻く外部環境の変動等によって影響を受ける可能性があり、実際に生じた課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、当連結会計年度の連結計算書類に計上した繰延税金資産の取崩しが発生する可能性があります。

4. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額

52,019百万円

(2) 有形固定資産の減損損失累計額

減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

5. 連結損益計算書に関する注記

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
キョーリン製薬グループ工場株式会社（秋田県能代市）	寮	建物及び構築物、土地
ActivX Biosciences, Inc. (米国)	事業用資産	建物及び構築物、その他

当社の連結子会社であるキョーリン製薬グループ工場株式会社は、遊休資産である寮を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(147百万円)として特別損失に計上しました。その内訳は、建物及び構築物104百万円及び土地42百万円であります。なお、当該資産の回収可能価額は不動産鑑定士による鑑定評価額により算定しております。

当社の連結子会社であるActivX Biosciences, Inc.を解散する方針を決定したことに伴い、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失(110百万円)として特別損失に計上しました。その内訳は、建物及び構築物23百万円及びその他87百万円であります。なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は売却見込額を用いて算定しております。

6. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数

普通株式

64,607,936株

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年5月20日 取締役会	普通株式	1,860	32.0	2022年3月31日	2022年6月7日
2022年11月9日 取締役会	普通株式	1,162	20.0	2022年9月30日	2022年12月2日
計		3,023			

(注) 1. 2022年5月20日取締役会の決議による配当金の総額には、株式給付信託口が保有する当社株式に対する配当金23百万円、及び役員株式給付信託口が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれています。

2. 2022年11月9日取締役会の決議による配当金の総額には、株式給付信託口が保有する当社株式に対する配当金14百万円、及び役員株式給付信託口が保有する当社株式に対する配当金1百万円が含まれています。

② 株主資本の著しい変動に関する事項

2022年6月24日開催の定時株主総会決議により、2022年8月31日付で、会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金30,000百万円を減少させ、その他資本剰余金に振り替えております。なお、株主資本の合計金額に、影響はありません。

③ 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年5月22日 取締役会	普通株式	1,860	32.0	2023年3月31日	2023年6月6日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

(注) 2023年5月22日取締役会の決議による配当金の総額には、株式給付信託口が保有する当社株式に対する配当金23百万円、及び役員株式給付信託口が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれていません。

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取り組み方針

当社グループは、資金運用については安全性及び流動性を重視し、主に安全性の高い預金及び債券を中心として行っております。資金調達については、銀行借り入れによっております。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客である取引先の信用リスクに晒されております。当該リスクについては、社内規程に従い、主要な取引先の与信管理を定期的に行い、取引相手ごとに期日及び残高を管理することにより、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。なお、外貨建の営業債権については、主に外貨預金で管理し同一通貨の債務の決済を行う等により、為替変動リスクの軽減に努めています。

有価証券及び投資有価証券は、主に安全性の高い債券、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスク及び投資先企業の信用リスクに晒されております。当該リスクについては、定期的にこれらの時価や発行体の財務状況等を把握し、リスク軽減に努めています。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。また、一部、外貨建債務があります。

借入金は、主に運転資金、設備投資に係る資金調達によるものであります。

営業債務、借入金は流動性のリスクに晒されておりますが、当該リスクについては、資金繰計画を作成し定期的に更新することにより管理しています。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2023年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等（貸借対照表計上額1,398百万円）は、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。（注）2.を参照ください。）また、現金は注記を省略しており、預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しています。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 受取手形	1,816	1,816	－
(2) 売掛金	45,475	45,475	－
(3) 有価証券及び投資有価証券 (注) 2	21,553	21,553	－
資産計	68,845	68,845	－
(1) 支払手形及び買掛金	13,762	13,762	－
(2) 短期借入金	10,300	10,300	－
(3) 長期借入金	10,636	10,634	△2
負債計	34,699	34,697	△2

(3) 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

① 時価をもって連結貸借対照表額とする金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券	21,553	－	－	21,553

② 時価をもって連結貸借対照表額としない金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
受取手形	－	1,816	－	1,816
売掛金	－	45,475	－	45,475
支払手形及び買掛金	－	13,762	－	13,762
短期借入金	－	10,300	－	10,300
長期借入金	－	10,634	－	10,634

(注) 1. 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

資 産

(1) 受取手形 (2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。これらの時価はレベル2の時価に分類しております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格のため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。これらの時価はレベル2の時価に分類しております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(注) 2. 市場価格のない株式等は「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式 等	1,398

8. 収益認識に関する注記

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：百万円）

医薬品等の販売	108,526
ロイヤリティ収入・役務収益	4,743
顧客との契約から生じる収益	113,270
外部顧客への売上高	113,270

(2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項 (4) 会計方針に関する事項 ⑥ 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

(3) 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当該契約から生じる当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

①契約資産及び契約負債の残高等

当社グループの契約負債の残高はありません。また、過去の期間に充足（又は部分的に充足）した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益はありません。

②当社グループでは、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な取引はありません。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

9. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	2,189円	40銭
1株当たり当期純利益	82円	44銭

10. 重要な後発事象に関する注記

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2022年5月11日開催の取締役会において、2023年4月1日を効力発生日として、当社を吸収合併存続会社、当社の完全子会社である杏林製薬株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併（以下、「本合併」）をすることを決議し、同日付で吸収合併契約書を締結いたしました。なお、2023年4月1日付で本合併を実施しております。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	杏林製薬株式会社
事業の内容	医薬品等の製造、販売と仕入

② 合併契約締結日

2022年5月11日

③ 企業結合日

2023年4月1日

④ 企業結合の法的形式

当社を存続会社、杏林製薬株式会社を消滅会社とする吸収合併

⑤ 結合後企業の名称

杏林製薬株式会社

2023年4月1日付で商号を「キョーリン製薬ホールディングス株式会社」から「杏林製薬株式会社」へ変更いたしました。

⑥ その他取引の概要に関する事項

当社グループを取り巻く事業環境の急激な変化と当社の置かれた状況を鑑み、事業推進機能及び経営効率の向上を図ることを目的として、本合併を行うことといたしました。

(2) 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として会計処理をいたします。なお、これによる連結計算書類に与える影響はありません。

(本店移転)

当社取締役会は、2023年4月26日付で本店を移転することを決議し、2023年5月11日付で本店移転先ビルへの入居に係る賃貸借契約を締結いたしました。

本店移転の概要につきましては、以下のとおりであります。

1. 新本店所在地

東京都千代田区大手町一丁目3番7号

(ビル名：「日本経済新聞社東京本社ビル」、8階～10階)

2. 移転時期

2024年5月(予定)

3. 移転目的

社内外の環境変化を踏まえた柔軟な働き方の推進及びより一層の経営効率化を図るため。

4. 2024年3月期の業績に与える影響

本店移転に伴い発生する費用は現在精査中であります。

11. 追加情報に関する注記

(株式給付信託 (J-E S O P))

当社は2016年2月23日開催の取締役会において、当社の子会社であった杏林製薬(株)が、従業員に対して当社株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託 (J-E S O P)」(以下、「本制度」といいます。)の導入を決議いたしました。

なお、当社は「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(企業会計基準委員会実務対応報告第30号(平成27年3月26日))の指針に従って会計処理を行っています。

(1) 取引の概要

本制度は、予め杏林製薬(株)が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした杏林製薬(株)の従業員に対して当社の株式を給付する仕組みです。

杏林製薬(株)は、従業員に対し業績や個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権の取得をしたときに当該付与ポイントに相当する当社株式及び金銭を給付します。給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含めて取得し、信託財産として分別管理するものとします。

本制度の導入により、従業員の業績向上及び株価への関心も高まり、熱意を持って仕事に

取り組むことに寄与することが期待されます。また、企業価値の向上を通じて、株主の皆様を始めとした多様なステークホルダーの皆様ともメリットを共有できるものと考えております。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、1,621百万円、743千株であります。

(業績連動型株式報酬制度)

当社では、2016年6月24日開催の第58回定時株主総会において、当社の取締役及び当社子会社であった杏林製薬(株)の取締役（社外取締役を除きます。以下、「グループ役員」といいます。）を対象に、業績連動型の株式報酬制度（以下、「本制度」といいます。）の導入が決議されております。

なお、当社は「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（企業会計基準委員会実務対応報告第30号（平成27年3月26日））の指針に従って会計処理を行っています。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、グループ役員に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下、「当社株式等」といいます。）が給付される株式報酬制度です。

本制度を導入するに際し、当社は株式給付信託（Board Benefit Trust）の仕組みを採用します。なお、グループ役員が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として役員株式給付規程に定める信託期間中の一定期日とします。ただし、当該期日が到来する前に退任する場合は、グループ役員の退任時とします。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、208百万円、91千株であります。

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び国内連結子会社は、当連結会計年度より、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

※連結計算書類に記載の杏林製薬(株)は2023年4月1日付で当社と合併した旧杏林製薬(株)を指します。

貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	15,375	流 動 負 債	34,308
現金及び預金	4,241	短期借入金	33,800
前払費用	101	リース債務	87
短期貸付金	10,300	未払金	171
その他	732	未払費用	73
		未払法人税等	16
固 定 資 産	83,928	預り金	6
有 形 固 定 資 産	333	賞与引当金	124
建物	152	その他	28
工具器具及び備品	52	固 定 負 債	60
リース資産	127	リース債務	49
建設仮勘定	1	長期未払金	3
無 形 固 定 資 産	859	株式給付引当金	8
ソフトウェア	231	負 債 合 計	34,369
その他	627	純 資 産 の 部	
投資その他の資産	82,735	株主資本	64,935
関係会社株式	82,027	資本金	700
繰延税金資産	84	資本剰余金	53,084
その他	623	資本準備金	9,185
		その他資本剰余金	43,899
		利 益 剰 余 金	27,189
		利益準備金	3
		その他利益剰余金	27,185
		繰越利益剰余金	27,185
		自 己 株 式	△16,038
資 産 合 計	99,304	純 資 産 合 計	64,935
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	99,304

損益計算書

(自 2022年4月1日)
(至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額
営 業 収 益	5,853
営 業 費 用	2,793
営 業 利 益	3,059
営 業 外 収 益	93
営 業 外 費 用	177
経 常 利 益	2,975
特 別 損 失	
固 定 資 産 除 却 損	0
税 引 前 当 期 純 利 益	2,974
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	△25
法 人 税 等 調 整 額	△5
当 期 純 利 益	3,005

株主資本等変動計算書

(自 2022年4月1日
至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資本金	資 本 剰 余 金			利益剰余金
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金
当 期 首 残 高	700	39,185	13,899	53,084	3
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当					
資本準備金からその他資本 剰余金への振替		△30,000	30,000		
当 期 純 利 益					
自己株式の取得					
自己株式の処分					
当 期 変 動 額 合 計	-	△30,000	30,000	-	-
当 期 末 残 高	700	9,185	43,899	53,084	3

	株 主 資 本				純資産合計
	利 益 剰 余 金		自己株式	株主資本合計	
	そ の 他 利益剰余金	利益剰余金 合 計			
当 期 首 残 高	27,203	27,206	△16,038	64,952	64,952
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当	△3,023	△3,023		△3,023	△3,023
資本準備金からその他資本 剰余金への振替					-
当 期 純 利 益	3,005	3,005		3,005	3,005
自己株式の取得			△0	△0	△0
自己株式の処分			0	0	0
当 期 変 動 額 合 計	△17	△17	0	△16	△16
当 期 末 残 高	27,185	27,189	△16,038	64,935	64,935

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 子会社株式及び関連会社株式…………… 移動平均法による原価法
- ② その他有価証券
 - 市場価格のない株式等以外のもの…………… 決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、
売却原価は移動平均法により算定)
 - 市場価格のない株式等…………… 移動平均法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産…………… 定額法
- ② 無形固定資産…………… 定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）による定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

- ① 賞与引当金…………… 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- ② 株式給付引当金…………… 株式給付信託（Board Benefit Trust）による当社株式の給付に備えるため、役員株式給付制度規程に基づき、役員に割り当てられたポイントに応じた当社株式及び金銭の給付見込額を計上しております。

(4) 収益及び費用の計上基準

当社は、純粋持株会社として、子会社からの受取配当金や経営指導料等を得ており、移

転を約束した財又はサービスに対する支配を顧客が獲得した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。受取配当金については、配当金の効力発生日をもって収益を認識しております。また、経営指導料等については、契約内容に応じた受託業務が実施された時点で収益を認識しております。これらの履行義務に対する対価は、履行義務充足後、別途定める支払条件により概ね1年以内に受領しており、重大な金融要素は含んでおりません。

(5) グループ通算制度の適用

当社は、グループ通算制度を適用しております。

2. 会計方針の変更に関する注記

時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる計算書類に与える影響はありません。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	1,007百万円
(2) 関係会社に対する短期金銭債権	10,306百万円
関係会社に対する短期金銭債務	33,834百万円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高	
営業収益	5,853百万円
営業費用	758百万円
営業取引以外の取引高	257百万円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

株式の種類	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	6,553,924株	131株	390株	6,553,665株

- (注) 1. 自己株式の当期末株式数には、信託が保有する株式91,938株を含めております。
 2. 自己株式の増加数は、単元未満株の買取請求等による増加131株であります。自己株式の減少数は、信託による交付による減少390株であります。

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生 の 主な原因は、賞与引当金繰入額の否認によるものであり、その他、関係会社株式評価損、投資有価証券評価損の否認から発生する繰延税金資産については、評価性引当額により控除しております。

グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い

当社は、当事業年度より、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。）に従っております。また実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

7. 関連当事者との取引に関する注記

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
子会社	杏林製薬株式会社	所有 直接 100.0%	資金の借入	資金の返済 資金の借入(注)	29,800 33,800	短期借入金	33,800

(注) 資金の借入につきましては、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

8. 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「1. 重要な会計方針に係る事項 (4) 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

9. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	1,118円 53銭
1株当たり当期純利益	51円 78銭

10. 重要な後発事象に関する注記

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2022年5月11日開催の取締役会において、2023年4月1日を効力発生日として、当社を吸収合併存続会社、当社の完全子会社である杏林製薬株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併（以下、「本合併」）をすることを決議し、同日付で吸収合併契約書を締結いたしました。なお、2023年4月1日付で本合併を実施しております。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	杏林製薬株式会社
事業の内容	医薬品等の製造、販売と仕入

②合併契約締結日

2022年5月11日

③企業結合日

2023年4月1日

④ 企業結合の法的形式

当社を存続会社、杏林製薬株式会社を消滅会社とする吸収合併

⑤結合後企業の名称

杏林製薬株式会社

2023年4月1日付で商号を「キョーリン製薬ホールディングス株式会社」から「杏林製薬株式会社」へ変更いたしました。

⑥その他取引の概要に関する事項

当社グループを取り巻く事業環境の急激な変化と当社の置かれた状況を鑑み、事業推進機能及び経営効率の向上を図ることを目的として、吸収合併を行うことといたしました。

(2) 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業

「結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理をいたします。なお、これにより翌事業年度において、抱合せ株式消滅差益として468億43百万円を特別利益に計上する予定であります。

(本店移転)

当社取締役会は、2023年4月26日付で本店を移転することを決議し、2023年5月11日付で本店移転先ビルへの入居に係る賃貸借契約を締結いたしました。

本店移転の概要につきましては、以下のとおりであります。

1. 新本店所在地
東京都千代田区大手町一丁目3番7号
(ビル名:「日本経済新聞社東京本社ビル」、8階~10階)
2. 移転時期
2024年5月(予定)
3. 移転目的
社内外の環境変化をふまえた柔軟な働き方の推進及びより一層の経営効率化を図るため。
4. 2024年3月期の業績に与える影響
本店移転に伴い発生する費用は現在精査中であります。

11. 追加情報に関する注記

(業績連動型株式報酬制度)

当社では、2016年6月24日開催の第58回定時株主総会において、当社の取締役(社外取締役を除きます。以下、「役員」といいます。)を対象に、業績連動型の株式報酬制度(以下、「本制度」といいます。)の導入が決議されております。

なお、当社は「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(企業会計基準委員会実務対応報告第30号(平成27年3月26日))の指針に従って会計処理を行っています。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、役員に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭(以下、「当社株式等」といいます。)が給付される株式報酬制度です。

本制度を導入するに際し、当社は株式給付信託(Board Benefit Trust)の仕組みを採用します。なお、役員が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として役員株式給付規程に定

める信託期間中の一定期日とします。ただし、当該期日が到来する前に退任する場合は、役員の退任時とします。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、208百万円、91千株であります。

※計算書類に記載の杏林製薬(株)は2023年4月1日付で当社と合併した旧杏林製薬(株)を指します。

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告

独立監査人の監査報告書

2023年5月19日

杏林製薬株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 香山 良
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 春日 淳志
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、杏林製薬株式会社(旧会社名キョーリン製薬ホールディングス株式会社)の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、キョーリン製薬ホールディングス株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

会計監査人の監査報告

独立監査人の監査報告書

2023年5月19日

杏林製薬株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 香山 良指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 春日 淳志

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、杏林製薬株式会社(旧会社名キョーリン製薬ホールディングス株式会社)の2022年4月1日から2023年3月31日までの第65期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書(以下「計算書類等」という。)について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

注記事項10. 重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、2023年4月1日を効力発生日として、完全子会社である杏林製薬株式会社を吸収合併した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、2022年4月1日から2023年3月31日までの第65期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、監査計画等に従い、取締役、グループ監査室、その他の従業員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び従業員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び従業員等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
なお、財務報告に係る内部統制については、取締役等及びEY新日本有限責任監査法人から当該内部統制の評価及び監査の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行なわれることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制を含め、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年5月19日

杏林製菓株式会社 監査役会

常勤監査役 松本臣春 ㊟

常勤監査役 阿久津賢二 ㊟

社外監査役 山口隆央 ㊟

社外監査役 池村幸雄 ㊟

社外監査役 森田憲右 ㊟

以上

株主総会会場 ご案内図

会場

ホテル メトロポリタン エドモント 2階 悠久の間
東京都千代田区飯田橋三丁目10番8号
電話：03-3237-1111（代表）



最寄駅から会場までのご案内

- JR：飯田橋駅 [東口] より徒歩5分
：水道橋駅 [西口] より徒歩5分
- 東京メトロ東西線：飯田橋駅 [A5 出口] より徒歩2分
- 東京メトロ東西線、有楽町線、南北線、都営大江戸線：飯田橋駅 [A2 出口] より徒歩5分

路線マーク一覧

- 東西線 ■ 有楽町線
- 南北線 ■ 大江戸線

【ご案内】ご出席の株主様へのお土産の配布は
ございません。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



植物油インキを使用
しています。